

2020 年度 東北大学・熊本大学 履修証明プログラム
産学連携教育イノベーター育成プログラム 科目概要

① 大学教育基礎力科目（15 時間：共通必修）※オンライン

【目的】 大学で授業を担当するのに必須となる基礎的な知識・技能を修得することを目的とします。
【学習目標】 大学教育の動向や大学教員の役割・責務・倫理について正確な認識を持つとともに、インストラクショナルデザインやカリキュラムデザイン等の観点から、教育目標（期待される学習成果）の設定、学習評価、教育内容、教育方法、教材作成等に関する基礎的知識・スキルを修得し、それらの応用により、実務経験の体系化・構造化とその学問的知識との関連付けを行うことを目指します。
【授業方法】 受講生は、各学習項目に関する Web 上の動画を視聴し（オンライン学習：0.5 時間）、各項目について、Moodle 上で小テストに解答した上で、Moodle 掲示板上で講義内容に関する疑問・考察内容等を投稿するとともに、他受講生の投稿を読み、コメントを行う（Web コメント：0.5 時間）。最後に、本科目で学んだことに関する「大学教育基礎力レポート」の作成に取り組みます（レポート：3.0 時間）。
【成績評価方法】 全ての学習項目において、小テストで 6 割以上正解すること、Moodle 掲示板へ投稿すること、並びに、他者の投稿にコメントすることを、大学教育基礎力レポートの提出前に満たさなければならない前提条件とします。大学教育基礎力レポートの評価は、100 点満点で、チェックリストによって評価します。同レポートの評価が 60 点以上であれば、本科目は合格とします。

学習項目	講 師	時間	概 要
1 オリエンテーション	大森 不二雄 (東北大学 教授) 杉本 和弘 (東北大学 教授)	1.0	本プログラムの目的、概要、特徴、進め方等に関する説明及び意見交換を行い、受講のレディネスを高めます。
2 大学教育制度論	大森 不二雄 (東北大学 教授) 杉本 和弘 (東北大学 教授)	1.0	大学の歴史的発展プロセスを振り返り、現代の高等教育を特徴づける 3 つの変化について学びます。その上で、日本で進行する大学教育改革の特徴を考察し、その中で教員が担うべき主体的役割について考えます。
3 学生・学習支援論	岡田 有司 (東京都立大学 准教授) 佐藤 智子 (東北大学 准教授)	1.0	大学生の抱える心理的・発達の問題を理解するとともに、学生支援や「合理的配慮」に基づく障害学生支援について学びます。さらに、学習観が転換しつつある現代に求められる効果的な学習支援のあり方を考えます。
4 カリキュラムマネジメント	杉谷 祐美子 (青山学院大学 教授)	1.0	大学におけるカリキュラムの歴史的変遷や現状を踏まえ、教育目的・教育目標を実現するための「カリキュラムマネジメント」の考え方や活用方法について学びます。
5 インストラクショナルデザイン	鈴木 克明 (熊本大学 教授)	1.0	教育や研修の効果・効率・魅力を高めるための道具である「インストラクショナルデザイン (ID)」の基礎理論や具体的手法について学びます。
6 授業設計論	平岡 齊士 (熊本大学 准教授) 合田 美子 (熊本大学 准教授)	1.0	学習目標、評価方法、教授方法を統合的にデザインする授業設計の方法を学び、実際に授業内外の学習をいかに設計して学習者に働きかけるかについて考えます。
7 教育改善論	高橋 哲也 (大阪府立大学 副学長) 緒方 広明 (京都大学 教授)	1.0	大学に関するあらゆる情報を収集・分析・活用する「インスティテューショナル・リサーチ (IR)」と、学習者の学習活動に関するビッグデータを収集・分析して教育改善等につなげる「ラーニング・アナリティクス (LA)」について学び、組織的な教育改善のあり方について考えます。
8 大学における倫理	山内 保典 (東北大学 准教授)	1.0	知の生産・活用に携わるプロフェッショナルとして、研究上・学習上のアカデミック・インテグリティ (学術的誠実性) を身につけること、大学におけるハラスメントを防止することの大切さについて学びます。

9	学習評価論	松下 佳代 (京都大学 教授)	1.0	「学習評価」の枠組み・方法を概観した上で、特に学習成果の多様な評価方法について具体例を通して学びます。また、学生を評価の主体として育てていく必要性について考えます。
10	オンライン授業実践論	根岸 千悠 (大阪大学 特任助教) 浦田 悠 (大阪大学 特任講師) 佐藤 浩章 (大阪大学 准教授) 村上 正行 (大阪大学 教授)	1.0	オンライン授業は、対面授業とどう違うのでしょうか。オンライン授業やeラーニングに役立つツール・手法を用いた実践事例を紹介しつつ、オンライン授業の実践時に配慮すべき10のポイントについて学びます。
11	ICT等先端技術活用教育論	戸田 真志 (熊本大学 教授) 松葉 龍一 (熊本大学 准教授) 喜多 敏博 (熊本大学 教授) 甲斐 晶子 (熊本大学 非常勤講師)	1.0	ICT等の先端技術を教育実践でどのように活用するのかについて、実際に教育現場においてSNSアプリやスマートスピーカーを用いた実践事例を紹介しながら学んでいきます。
12	実務家教員論	松井 利之 (大阪府立大学 教授) 広瀬 正 (大阪府立大学 特認教授)	1.0	実務家教員が必要となっている政策的・社会的要因を背景に、実務家教員の役割やその登用メリットについて学びます。さらに、先達教員の経験から、実務家教員に求められる心がけや姿勢について考えます。
大学教育基礎力レポート			3.0	12の学習項目を通して学んだことを振り返り、考察するレポートを作成・提出します。

②汎用的教育実践力科目(9時間:共通必修)※演習

【目的】大学で授業を担当し、研究指導を行うために必要な実践的な知識・スキルを修得することを目的とします。

【学習目標】インストラクショナルデザイン、シラバス作成、研究指導について、集合・対面型のワークショップを通して、実際の教育現場で活用・応用できるようになることを目指します。

【授業方法】受講生は、各学習項目に関するワークショップに参加し(3.0時間)、ワークを通して1~3の学習項目ごとに成果物(授業計画やシラバス等)を完成させます。

【成績評価方法】各学習項目(各演習)受講後の成果物について、到達度をルーブリックで評価します。各学習項目を100点満点で採点し、60点以上で当該項目を合格とします。汎用的教育実践力科目を全体として合格するには、3つの学習項目の全てを合格する必要があります。

学習項目		講師	時間	概要
1	インストラクショナルデザイン演習	鈴木 克明 (熊本大学 教授) 平岡 斉士 (熊本大学 准教授) 合田 美子 (熊本大学 准教授)	3.0	大学教育基礎力科目の「インストラクショナルデザイン」や「授業設計論」で学んだ基礎知識を前提に、授業や教育プログラムの設計方法についてワークショップ形式で実践的に学びます。
2	シラバス作成演習	串本 剛 (東北大学 准教授)	3.0	教育目標・学習活動・学習成果の把握を構造化しながら、1学期・15回分の授業設計をいかに行うのか。実際のシラバス作成を通してワークショップ形式で学びます。
3	研究指導演習	出江 紳一 (東北大学 教授) 倉重 知也 (㈱イグニタス 代表取締役)	3.0	教員が学生に考えるヒントを与え、動機づけ、励まし、対話を行いながら、課題遂行を促す「コーチング」技術を用いた研究指導について、ワークショップ形式で学びます。

③専門領域別科目（選択必修 24 時間：いずれか 1 コースを選択）※オンライン・演習

産学連携リベラルアーツ教育力育成コース（東北大学提供コース）

【目的】大学と産業界が緊密に連携することで、質保証がなされた 21 世紀型の新たなリベラルアーツ教育を構想・設計し、教授できるようになることを目的とします。

【学習目標】リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを広く学んだ上で、近年注目を集める STEM 教育及び産学連携教育、並びに、大学教育の質保証に関する国際的な最新動向について学びます。その後、アクティブラーニングによるリベラルアーツ・セミナーや PBL 型授業を設計し、実際に学生を相手に授業を行うことを通して、実践的な授業マネジメント力の修得を目指します。

【授業方法】1) 受講生は、1～8 の学習項目については、Web 上の動画その他のコンテンツを視聴・閲覧し（オンライン学習：各 30 分～1 時間）、Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます（事後学習：各 2.0～2.5 時間）。各学習項目の学習時間は 3 時間となります。2) 9・10 の各学習項目については、講師の授業を実際に学生と一緒に受講するなど指導を受け（5 時間）、授業設計（4 時間）を行った上で、模擬授業（振り返りを含む）を実施します（3 時間）。学習項目 9・10 の学習時間はそれぞれ 12 時間となります。

【履修方法】1) 学習項目 1～8 から少なくとも 4 項目を選択して学習します。そのうち 1～4 から 2 項目以上を選択（選択必修）、1～8 から残り 2 項目以上選択することができます。2) 学習項目 9・10 のいずれかが少なくとも 1 項目を選択して学習します（選択必修）。

【成績評価方法】学習項目 1～8 については、4 項目の小レポートについて到達度をルーブリックで評価します。また、学習項目 9・10 については、それぞれの成果物（模擬授業を含む）について到達度をルーブリックで評価します。各学習項目を 100 点満点で採点し、60 点以上で当該項目を合格とします。専門領域別科目を全体として合格するには、上記の履修方法に従い、学習項目 1～8 のうち少なくとも 4 項目、学習項目 9・10 のうち少なくとも 1 項目、それぞれ合格する必要があります。

学習項目		講師	時間	概要
1	リベラルアーツ教育論	吉田 文 (早稲田大学 教授)	3.0	リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを振り返りつつ、日米の大学における一般教育（教養教育）カリキュラムを事例に、リベラルアーツ教育のカリキュラムの構造・原理について学びます。 ※e-learning「大学カリキュラムの構造と編成原理」(動画視聴)
2	STEM・文理融合教育論	山田 礼子 (同志社大学 教授)	3.0	米・豪・シンガポール・日本における科学技術政策と STEM 教育の動向を概観し、先進事例の検討を通して文理融合型による大学教育の学際化について考えます。 ※e-learning「STEM 高等教育の政策動向と米国・日本・シンガポールの新しい学際 STEM プログラム」(動画視聴, 英語による講演・日本語字幕)
3	産学連携教育論	吉本 圭一 (九州大学 名誉教授)	3.0	国際的に拡大する産学連携教育の特徴を概観し、特に職業統合型学習（WIL）を例に、学術と職業を架橋し往還する教育の可能性について考えます。 ※e-learning「産学連携教育の国際動向—学術と職業を往還する WIL—」(動画視聴)
4	教育質保証論	深堀 総子 (九州大学 教授)	3.0	2000 年代以降世界的に進行している高等教育質保証の動きを整理し、特に欧州のチューニングによる専門分野別の学習成果（コンピテンス）に基づく質保証の実践と課題について考えます。 ※e-learning「世界における高等教育の質保証の到達点と課題」(動画視聴)
5	基盤的 ID 論	鈴木 克明 (熊本大学 教授)	3.0	ID の基本的な考え方について理解した上で、掲示板による議論を行うとともに、それを応用する課題（自身の教育改善アイデア）を提出します。※e-learning

6	教材設計演習	平岡 斉士 (熊本大学 准教授)	3.0	自らの担当授業の中で、一コマ分の授業をするための、授業設計企画書・教授方法・教材・小テスト等を設計する練習を行います。 ※e-learning
7	動機づけ理論活用演習	都竹 茂樹 (熊本大学 教授)	3.0	多様な事例に対して ARCS モデルを適用する練習を通じて、自らの授業設計の改善を行います。 ※e-learning
8	e ポートフォリオ導入演習	松葉 龍一 (熊本大学 准教授) 久保田 真一郎 (熊本大学 准教授)	3.0	受講者自身の e ポートフォリオを構成することで、e ポートフォリオの設計や運用について習得します。 ※e-learning
9	リベラルアーツ・セミナー実践演習	大森 不二雄 (東北大学 教授) 杉本 和弘 (東北大学 教授) 宇野 健司 (㈱大和総研 調査本部 副部長)	12.0	受講者が主体となって、アクティブラーニングによるセミナー型リベラルアーツ教育の授業を設計し、実際に模擬授業を行うことを通じて、教育実践力を高めます。
10	PBL 設計・運営演習	松岡 洋佑 (㈱イノベスト 代表取締役/ 名古屋大学 招聘教員) 菱山 諒 (㈱イノベスト 取締役/ 一橋大学 非常勤講師)	12.0	受講者が主体となって、企業等の実課題に取り組む PBL 型授業を設計・運営し、相互フィードバックを通して、教育実践力を高めます。

インストラクショナルデザイン指導力育成コース（熊本大学提供コース）

【目的】大学の授業の設計を効果的・効率的・魅力的に改善するためのスキル修得、並びに、改善された設計を実践するための教育環境構築のためのスキルの修得を目的とします。

【学習目標】

- ・ 学習者が生涯にわたって活用できるスキル習得を目指した授業設計ができる。
- ・ 学習目標と評価情報と教授方法の整合性を満たした授業設計ができる。
- ・ 授業を効果的・効率的・魅力的にするための授業設計の改善案を提示できる。
- ・ 授業を効果的・効率的・魅力的にするために各種テクノロジーを用いた学習環境を構築できる。

【授業方法】受講生は、各学習項目に関する Web のコンテンツを閲覧し、Web 上で指示されるタスク・課題に取り組みます。他の学習者との相互コメントを通じて、自己のスキル習得の練習と実践を行います。

1) 受講生は、1～8 の学習項目については、Web 上の動画その他のコンテンツを視聴・閲覧し（オンライン学習：各 30 分～1 時間）、Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます（事後学習：各 2.0～2.5 時間）。各学習項目の学習時間は 3 時間となります。2) 9・10 の各学習項目については、講師の授業を実際に学生と一緒に受講するなど指導を受け（5 時間）、授業設計（4 時間）を行った上で、模擬授業（振り返りを含む）を実施します（3 時間）。学習項目 9・10 の学習時間はそれぞれ 12 時間となります。

【履修方法】1) 学習項目 1～8 から少なくとも 4 項目を選択して学習します。そのうち 1～4 から 2 項目以上を選択（選択必修）、1～8 から残り 2 項目以上選択することができます。2) 学習項目 9・10 のいずれか少なくとも 1 項目を選択して学習します（選択必修）。

【成績評価方法】各学習項目に用意された 3～5 程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。すべての課題の合格基準を満たすことで合格とします。

学習項目	講師	時間	概要	
1	基盤的 ID 論	鈴木 克明 (熊本大学 教授)	3.0	ID の基本的な考え方について理解した上で、掲示板による議論を行うとともに、それを応用する課題（自身の教育改善アイデア）を提出します。 ※e-learning
2	教材設計演習	平岡 斉士 (熊本大学 准教授)	3.0	自らの担当授業の中で、一コマ分の授業をするための、授業設計企画書・教授方法・教材・小テスト等を設計する練習を行います。 ※e-learning

3	動機づけ理論活用 演習	都竹 茂樹 (熊本大学 教授)	3.0	多様な事例に対して ARCS モデルを適用する練習を通じて、自らの授業設計の改善を行います。 ※e-learning
4	e ポートフォリオ 導入演習	松葉 龍一 (熊本大学 准教授) 久保田 真一郎 (熊本大学 准教授)	3.0	受講者自身の e ポートフォリオを構成することで、e ポートフォリオの設計や運用について習得します。 ※e-learning
5	リベラルアーツ 教育論	吉田 文 (早稲田大学 教授)	3.0	リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを振り返りつつ、日米の大学における一般教育（教養教育）カリキュラムを事例に、リベラルアーツ教育のカリキュラムの構造・原理について学びます。 ※e-learning 「大学カリキュラムの構造と編成原理」(動画視聴)
6	STEM・文理融合 教育論	山田 礼子 (同志社大学 教授)	3.0	米・豪・シンガポール・日本における科学技術政策と STEM 教育の動向を概観し、先進事例の検討を通して文理融合型による大学教育の学際化について考えます。 ※e-learning 「STEM 高等教育の政策動向と米国・日本・シンガポールの新しい学際 STEM プログラム」(動画視聴, 英語による講演・日本語字幕)
7	産学連携教育論	吉本 圭一 (九州大学 名誉教授)	3.0	国際的に拡大する産学連携教育の特徴を概観し、特に職業統合型学習 (WIL) を例に、学術と職業を架橋し往還する教育の可能性について考えます。 ※e-learning 「産学連携教育の国際動向—学術と職業を往還する WIL—」(動画視聴)
8	教育質保証論	深堀 總子 (九州大学 教授)	3.0	2000 年代以降世界的に進行している高等教育質保証の動きを整理し、特に欧州のチューニングによる専門分野別の学習成果 (コンピテンス) に基づく質保証の実践と課題について考えます。 ※e-learning 「世界における高等教育の質保証の到達点と課題」(動画視聴)
9	大人の学びへと誘う 教育改善演習	鈴木 克明 (熊本大学 教授) 喜多 敏博 (熊本大学 教授) 平岡 斉士 (熊本大学 准教授) 合田美子 (熊本大学 准教授) 長岡千香子 (熊本大学 研究員)	12.0	学習目標、評価方法、授業方法の高度化・拡張のためのアイデアを提示し、それを生かした授業改善計画を提案する練習をします。
10	既存のツールやサービスを活用した学習 環境構築演習	戸田真志 (熊本大学 教授) 平岡 斉士 (熊本大学 准教授) 長岡千香子 (熊本大学 研究員)	12.0	既存のツールやサービスを活用した学習環境を構築の例を参考にして、学習者自身の授業設計を各種ツールやサービスで実現します。

④教育イノベーター実践演習科目（12 時間：共通必修）

【目的】 これまでに修得した大学教育基礎力並びに汎用的及び専門的な教育実践力を総合的・応用的に活用して、教育イノベーターとして授業や教育プログラム等を変革・改善して実践・運営できるようになることを目的とします。

【学習目標】 実践知と学術知の往還を意識しながら自律的に構想した新規の取組案（授業、カリキュラム、プロジェクトの案等）の発表・討論を行うとともに、リフレクションレポートを作成することを通じ、本プログラム全体の学びと成長を振り返ることを目指します。

【授業方法】 受講生が自ら構想した新規の取組案について、①事前準備（5.0 時間）、②対面指導（1.0 時間）、③成果発表会（3.0 時間）、④振り返り・講評（1.0 時間）を行った上で、⑤リフレクションレポート（2.0 時間）を作成・提出します（計 12.0 時間）。

【成績評価方法】 成果発表会での発表内容を含むリフレクションレポートについて、到達度をルーブリックで評価します。100 点満点で採点し、60 点以上で合格とします。

学習項目		講 師	時間	概 要
1	キャップストーン・プロジェクト	大森 不二雄 （東北大学 教授） 杉本 和弘 （東北大学 教授） 鈴木 克明 （熊本大学 教授） 戸田 真志 （熊本大学 教授）	12.0	受講生が自ら構想した新規取組案について、①事前準備、②対面指導、③成果発表会、④振り返り・講評を行った上で、⑤リフレクションレポートを作成・提出します。プログラムを通して修得した知識とスキルの統合と振り返りを行うことを通して「教育イノベーター」としての総まとめを行います。